

2019年2月10日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「安心して行きなさい」

聖書：ルカによる福音書7:36～50

この世は様々な価値観、常識に囚われている現状があるが、しかし聖書はそれを覆すものだったりする。たとえば、「貧しい人々は幸いである」というイエスの言葉は、この世の価値観では考えられないこと。どうして「貧しい人々」が幸いなのか？ ただイエスがそう語られる時、私たちの目はそういう状況に置かれた場に向けられて行く。富んでいる者が幸いと思っている私たちの価値観がゆさぶられる。私たちの価値観、常識を解き放してくださるのがイエスの言葉である。

イエスは、ファリサイ派シモンから食事に招かれた。ファリサイ派とは厳格な律法主義である。そこに一人の女性が入って来た。この女性はイエスに対し涙で足の足を濡らし、自分の髪で拭き取り、その足に接吻し香油を塗った。この女性のこれ以上ない主イエスに対する喜びの表現である。その行為を見たシモンは心の中で「自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。するとイエスはシモンに譬話をする。500 デナリオンと50 デナリオンの借金をした二人が、どちらも返すお金がなかったので、金貸しは、両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか・・・と、シモンに問うた。そして、当然ながら多く借金を帳消しにしてもらった者ですと答えて、イエスは「その通りだ」と言う。ただここでの問いは、シモンあなたは、そういうふうにはこの女性を見ていたのではないのか・・・と問われているということ。ここでは「罪深い」とされていた女性とファリサイ派シモンの罪の大きさとか、愛の大きさの比較が、問題になっているのではない。大事なことは、譬えの中で金貸しが両方の借金を帳消しにしたことが大事になる。シモン、あなたの罪も、この女性の罪も、神の目から見れば同じであり、赦すことも、愛することも同じなんだというメッセージがある。

イエスはこの女性に「あなたの罪は赦された・・・安心して行きなさい」と言う。「安心して行きなさい」とは、これまでこの世の常識、律法の習わしにおいて、「罪深い女」とレッテルを貼られて生きてきた。身を隠すように生きてきたこの女の人に対し、イエスは「あなたの罪は赦されているんだよ、だから、胸を張って、堂々と安心して、これからの人生を歩みなさい」ということであろう。これ以上ないイエスの励ましである。それが福音であり、信仰として生きることである。(神谷)